（1）主題名　家族愛　〔小学校高　4－（5）〕

（2）ねらい　日々の生活は，家族のみんなの愛情によって支えられていることに気付き，家族と協力して明るい家庭を築いていこうとする心情を育てる。

（3）資料名　「　ぼくの家出　」（出典：明日をめざして　6年　東京書籍）

資料の概要
**　性格が明るく勉強もでき，みんなに好かれている兄と，運動は何をやっても兄よりうまいがその他のことは兄とずいぶん違う主人公「ぼく」。テレビを見終わり，宿題を始めようと立ち上がった時に，母親から宿題がまだ済んでいないことを注意され口答えをしてしまう。その上，父親にも反抗的な態度を叱られ，感情的になって家を飛び出してしまった。町中をさまようが，自分を探す家族の姿を目の当たりにして，自分の軽率な行動を後悔し，家族の愛情に胸がいっぱいになるという内容である。**

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	留　意　点
導入	1　親にしかられ不満に思った経験を発表しあう。	○お家の人に叱られ，腹が立つ時はどういうときですか。 ・勉強をしなさいといわれた時 ・手伝いをしなさいといわれる時	○自分の思いを，認めてもらえなかった経験を共感的に持って聞きあえるようにさせる。
展開	2　資料を読んで「ぼく」の気持ちの変化について考える。	○兄と比べられて，ぼくは両親のことをどう思っていますか。 ・ぼくばかりおこる親 ・ぼくのことをわかってくれない親 ○家を飛び出し，町を歩いているうちにどんな気持ちになっていったでしょう。 ・ジュースを飲みながら歩いているときは親を不満に思っている ・おもちゃ屋に入った時は親が恋しくなった ・本屋にいる時は不安になる ○自分のことを心配してくれている家族のことを知ったときの「ぼく」はどんな気持ちでしょう。 ・心配してくれているんだな ・安心した ○「ごめんなさい」という気持ちが声にならず涙をこらえている時の「ぼく」はどんな気持ちだったでしょう。	○空欄のあるワークシートを用意し，兄と比べられて，自分のことをわかってくれていないと思う両親に対する不満を考えさせる。 ○勢いで家を出てしまった「ぼく」の行動を追いながら，不安になっていく心情に気付かせる。
	3　家族に対する「ぼく」の気持ちを考える。	・心配かけてごめんなさい ・本当はぼくがわるかった ◎ぼくのことを心配する両親のことをどう思うようになったでしょう。 ・自分のことを大切に思ってくれる ・かけがえのない親	○空欄に当てはまる言葉を考え，始めに考えた言葉と比べることで，真の家族の気持ちを考えさせる。
終末	4　本時のまとめをする。	○体験談を読むので，聞きましょう。 ・やっぱり自分を一番わかっているのは家族だ ・最後には自分の気持ちをわかってくれるのは親だ	○自分のことを本当に心配をしてくれているのは両親であることに思いを寄せさせる。 【親のこころ】 １万年堂出版より

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

自分のことを親身になって捜す家族の姿を通して，自分の行動を反省し，家族に対する信頼感を深く持つことができる内容である。

また，親への反抗的な気持ちが芽生える時期の児童が主人公の心情や行動に共感しながら，自分にとって最大の愛情を注いでくれているのは一番身近にいる親であることを再認識できる資料である。

２　指導過程の工夫

児童が，自分の感情を想起できるように，主人公の感情の変化を追って学習を進めていくように展開を考えた。展開のはじめに親に関する不満な感情に共感させた。そして，内容を追って状況の変化を学習していくうちに，最後には親に対する信頼感に気付かせていくことができた。誰もが持つ親に対する感情が，状況によって変化していく様子に気付かせ，共感させていくことで，自分の生活や内面を省みることができた。

３　発問の工夫

展開のはじめでは，「こんなことあるよね」と生活を省みられるような補助発問をし，自分の内面を主人公の心情に寄り添わせるようにした。

主人公の行動に着目しながら，そのとき「ぼくはどう思っていたのだろう」と問いかけ，考えにくいときには「自分だったらどう感じるか」と発問し，自分にもありうるかもしれない心情の変容であることに共感させた。

４　児童の反応

主人公の心情の変化に共感しながら学習をしていた。親のことを「うるさい」とか「自分のことを理解してくれていない」ということで不満を感じ，投げやりな気持ちになることもあるが，やはり最終的に自分のことを一番心配し，親身になって考えてくれるのは親であることに改めて気付き，親に対する信頼感を強めていた。

・　親ってこういうもんなんだなと思った。

・　時々，親は全然わかってくれていないと感じる時もあるけど，やっぱり親は心配するんだなと思った。

５　授業後のフォローアップ

感想に自分の生活や家族への不満などを書いた児童には個別指導を行い，保護者と連携を取って共に考えていきたい。

保護者懇談会などで子どもたちの心の成長を紹介し，自我の芽生えによる自立した考えや，その反面親に対するやさしい思いを紹介し，子どもの内面の成長をともに考えていくきっかけにしたい。

また，保護者参加型の授業を計画し，親の立場からの意見を交えると親の願いがより深く感じられるであろう。

（藤の木小学校）